

## 令和5年度 武庫川女子大学 社会情報学部自己点検・評価結果

武庫川女子大学社会情報学部自己点検・評価委員会において、「武庫川女子大学社会情報学部 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に関する自己点検・評価を実施した。

日 時： 令和6年3月25日（月）15：30～16：30

場 所： ZOOMによる開催

出席者： 運営委員長 新田直子、学部長 鯨坂恒夫 学科長 赤岡仁之 幹事教授 大森いさみ・福井哲夫  
運営委員 大野ゆう子・庄野宏

### 【点検内容】

プログラム対象科目のシラバス、プログラム対象科目の履修・成績状況、授業アンケート結果等

#### 1. プログラムの評価（総括）

計画されたプログラムが順調に推移していると判断される。引き続き、学生の理解度を高めるための授業改善に取り組んでいくことが必要と思われる。現時点ではプログラムとして用意されたうち2科目のみの開講であり、学生の学修成果や活躍状況については修了生を輩出することができた時点で改めて詳細な分析を行うこととしたい。

#### 2. 令和5年度プログラム対象科目の履修・修得状況について

プログラムとしては現在進行中の状況であり、令和5年度に開講されたプログラム対象科目は以下の2科目となる。

科目名	履修者数	合格者数	合格率
A I 入門	156名（聴講2名含む）	135名	87%
統計学 I	198名	190名	96%

両科目共に高い合格率となっており、学習に対して意欲的に取り組むことができている。プログラムとして修得すべき科目は合計6科目あることから、修了者を多く輩出できるように継続的に学びのサポートを行う。

### 3. 令和5年度授業アンケート結果

- A 問1)：授業が進むペースはちょうど良かったですか？
- B 問2)：授業内容がよく理解できるように工夫・配慮されていましたか？
- C 問3)：質疑応答や意見交換等の機会が設定されていましたか？
- D 問4)：話し方や言葉遣いはわかりやすかったですか？
- E 問5)：教科書や資料、教材等はわかりやすく、授業の理解に役立ちましたか？
- F 問6)：課題や提出物等に対するフィードバックはありましたか？
- G 問7)：主体的に学べるための工夫がされていましたか？
- H 問8)：あなたは授業の目的や目標について理解して学びましたか？
- I 問9)：あなたは授業の内容をよく理解できましたか？
- J 問10)：新しい知識やスキルを学びましたか？
- K 問11)：学んだ内容についてさらに深く学びたいと思いましたか？
- L 問12)：予習・復習等に平均して週あたりどのくらい学修しましたか？（授業外での友人同士の意見交換等も含む）

時間割コード	科目名	曜時	開講所属	回答者数 (人)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
44056	A I 入門	木3	情報	17	3.6	3.6	3.6	4.0	3.5	3.9	3.4	3.6	3.1	3.7	3.3	2.0
44057	A I 入門	木4	情報	13	3.9	3.8	3.5	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.2	3.8	3.6	2.1
時間割コード	科目名	曜時	開講所属	回答者数 (人)	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
44059	統計学 I	木2	情報	8	2.9	2.6	2.9	3.9	2.5	3.8	3.3	3.1	2.6	3.9	3.0	2.9
44061	統計学 I	木1	情報	5	2.0	1.4	2.0	2.2	2.0	2.6	1.6	1.8	1.6	2.0	2.8	2.8

学生によるアンケートの回答率が低いため、適切な判断が難しいが、「A I 入門」と比べ、「統計学 I」の授業内容に関して難易度が高かったことが考えられる。特に「統計学 I」については、理解を促進するための工夫や配慮が必要と思われる結果が出ており、担当者と意見交換を行い、授業方法や進め方についての改善策がないかの検討を進めていく。

#### 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

入学時のオリエンテーション及び各学期のガイダンスにおいて担任教員より本プログラムの意義を説明し履修指導を行うとともに、既設の社会情報学部のホームページの受講ガイドを活用し学生に周知するなど、毎年度できるだけ多くの学生が履修できるように考えている。今後は学生アンケートも実施することも検討し、より学生に推奨していきたい。

#### 5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

今回、本学部において開設された応用基礎レベルの状況からカリキュラムの難易度を含めた学生の実態を把握し、全学的に応用基礎レベルまで広げることができるかを検討することになる。プログラムの修了生を輩出するタイミングをもって見極めたい。

以 上